

妙法寺だより

今を生きる智恵と勇気ともに学び歩むお寺

VOL.264

夏 号

7

2026 SUMMER
季刊誌2026年7月発行



- ・ 7月浄心道場のご案内
- ・ 新しい僧侶のご紹介
- ・ ほおずき市のご案内
- ・ 住職のCoffeeTime 「宮澤賢治と法華経」
- ・ 研修会報告 「マツコの知らない世界」に出演報告など

7月5日 浄心道場

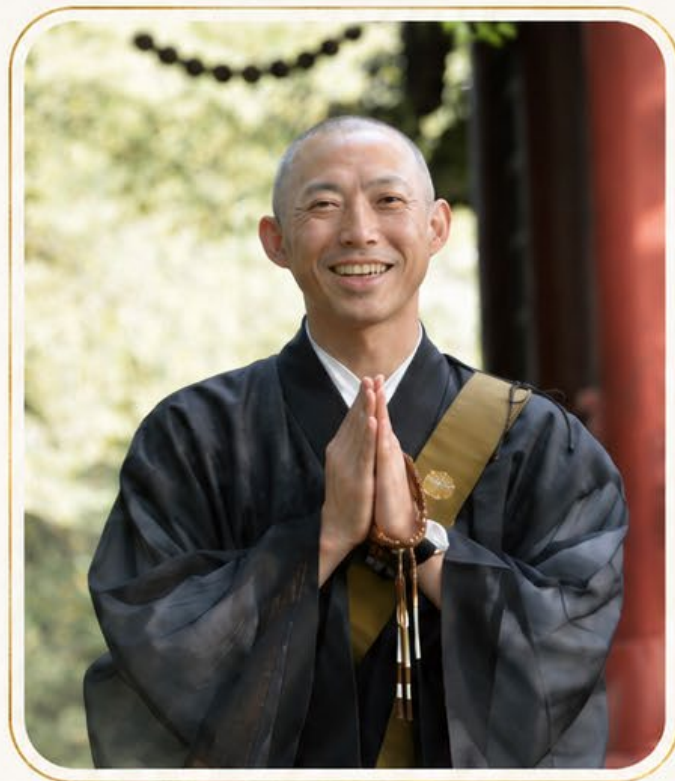
皆様のご参加お待ちしております

いのちに合掌

～誰もがイキイキと輝くために～

テーマコメント

なぜ「命」とも「生命」とも表記せず、
平仮名の「いのち」となっているのでしょうか。
そして「合掌」とは。日蓮宗の教えが
凝縮されている「いのちに合掌」は、まさに
人生の宝処で、「いのち」を知り、
「いのちを育み」「いのちを輝かす」
尊い一時を共に過ごしましょう。
これを読んでいるあなたは、
すでに仏様に選ばれし方なのですから。



福井県 妙智寺 ご住職
日蓮宗 常任布教師

坂井 是真 上人

坂井是真上人は、日蓮宗訓育部の中核を担い、
現代の日蓮宗を代表される僧侶です。住職自身も尊敬する
僧侶の一人であります。日蓮宗のスローガンである
「いのちに合掌」をテーマに心に響くご法話をいただきます。
皆様のご来寺を心よりお待ちしております。

7/5 (日)



14:00～

1部

供養会

午後2時～

2部

法話会

午後3時～

新しい僧侶のご紹介



中嶋 教観 (なかしま きょうかん)

昭和58年4月28日生（現在42歳）新潟県上越市 妙国寺のご出身。平成16年に信行道場を修了以来、僧侶として研鑽を重ねてられました。その後、鎌倉の名刹 長勝寺様に長年勤務され、数多くの法務に携わるなど、豊富な経験を積まれております。また、日蓮宗大荒行堂で幾度となく修行を重ねられ、御祈祷にも精通された僧侶でいらっしゃいます。住職に代わり葬儀や法事などの法務をお願いする機会もございますので、よろしくお願いいたします。



金井 俊樹 (かない しゅんじゅ)

平成15年3月5日生（23歳）熊本県熊本市 常清寺のご出身。本年5月に信行道場を修了され、晴れて僧侶となりました。学生時代には、東京ディズニーリゾートのホテルキャストとして勤務されていたという異色の経歴をお持ちです。東京ディズニーリゾートで培われた「おもてなしの心」で、檀信徒の皆様をお迎えしてくれると思います。妙法寺で僧侶としての経験を積みながら修行に励んでまいります。若さと誠実さを持って皆さまをお迎えいたしますので、どうぞ温かくお見守りいただければ幸いです。

妙法寺

ほおずき市

7月11日（土） 9：00～

本年も横浜東戸塚ライオンズクラブ主催の「ほおずき市」が、7月11日 9：00～妙法寺の境内で賑やかに開催されます。ぜひ、足をお運びください。

宮澤賢治と聞くと、多くの方は『雨ニモマケズ』や『銀河鉄道の夜』を思い浮かべるのではないのでしょうか。賢治は童話作家、詩人として広く知られていますが、その人生の根底には、深い法華経信仰がありました。今回の住職のCoffeeTimeでは、「宮澤賢治と法華経」と題してお届けいたします。



宮澤賢治と法華経

「雨ニモマケズ」に込められた菩薩の願い



雨ニモマケズ【全文】

雨ニモマケズ 風ニモマケズ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ

丈夫ナカラダヲモチ 欲ハナク 決シテ瞋ラズ

イツモシヅカニワラツテ牛（イ）ル

一日ニ玄米四合ト 味噌ト少シノ野菜ヲタベ

アラユルコトヲ ジブンヲカンジョウニ入レズニ

ヨクミキキシ ワカリ ソシテ ワスレズ

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ小サナ萱ブキノ小屋ニ牛テ

東ニ病氣ノコドモアレバ 行ツテ看病シテヤリ

西ニツカレタ母アレバ 行ツテソノ稻ノ束ヲ負ヒ

南ニ死ニサウナ人アレバ

行ツテコハガラナクテモイ、トイヒ

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ

ツマラナイカラヤメロトイヒ

ヒデリノトキハ ナミダヲナガシ

サムサノナツハ オロオロアルキ

ミンナニデクノボートヨバレ

ホメラレモセズ クニモサレズ

サウイフモノニ ワタシハナリタイ

宮澤賢治の生涯

賢治は明治二十九年、現在の岩手県花巻市に生まれました。実家は質屋・古着商を営み、浄土真宗の家庭でしたが、若き日に『法華経』と出会い、強い感銘を受けます。やがて法華経信仰を自らの生き方の中心に据え、文学、農業、教育を通して、地域の人々の幸せのために尽くそうとしました。



宮澤賢治 写真提供：日本近代文学館

その賢治の信仰がよく表れているのが、有名な「雨ニモマケズ」ではないかと感じます。この作品は、元気な時ではなく、病床に伏せ病気で苦しんでいるときに、賢治が手帳に書き記したものです。賢治はもともと体が強い人ではありませんでした。だからこそ「丈夫ナカラダモチ」という言葉には、単なる健康への願いだけでなく、誰かのために動ける身でありたいという切実な祈りが込められているように思います。

また、「欲ハナク」「一日ニ玄米四合ト味噌ト少シノ野菜ヲタベ」という言葉には、仏教でいう「少欲知足（欲を少なくし、足るを知る）」の生き方が感じられます。ここで語られているのは、贅沢を捨て、単に質素に暮らすということだけではなく、己の欲望を制御し、命の本質に目を向ける修行でもありました。私たちは、つい多くを求めてしまいませんか。もっと便利に、もっと豊かに、もっと認められたいと願います。しかし賢治は、多くを持つことよりも、必要なものをいただき、静かに生きることに、人間としての深い豊かさを見ていたのではないのでしょうか。そして、「あらゆることを、自分を勘定に入れずに、よく見聞きし、分かり、そして忘れず」という言葉は、まさに仏教の「正見」に通じます。正見とは、物事を正しく見るといことです。自分の感情や利害というフィルターを通さず、ありのままの世界を正しく見る。自我を

消し、智慧を磨こうとする賢治の求道心が、この短いフレーズに凝縮されています。私たちは、どうしても自分の好き嫌い、損得、立場を通して物事を見てしまっています。「自分にとって都合がよいか」「自分が傷つかないか」「自分が得をするか」という思いが先に立つことがあります。しかし仏教は、その自我から離れ、ものごとをありのままに見つめることを教えます。賢治の言う「自分を勘定に入れず」とは、まさにそのような仏教的な眼差しであったように思えます。

「行って」という姿勢

そして後半に入ると、この詩は大きく動き出します。

東に病氣の子どもがいれば、行って看病してやる。

西に疲れた母がいれば、行ってその稲の束を負う。

南に死にそうな人がいれば、行って怖がらなくてもよいと言う。

北に喧嘩や訴訟があれば、つまらないからやめなさいと言う。

ここで大切なのは、「行って」という姿勢であると思います。苦しむ人が来るのを待つものではありません。自らその人のもとへ出向いていく、これは、まさに法華経に説かれる菩薩の姿であります。

「菩薩」とは、自分一人の悟

りや安心だけを求める人では

ありません。他者の苦しみに

気づき、その人のそばへ行き、

ともに救われていこうとする

仏道者のことです。「雨ニモ

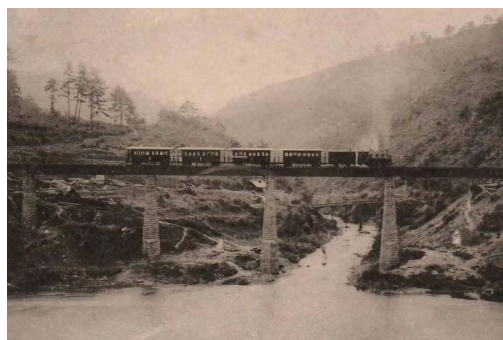
マケズ」は、単なる忍耐の詩

ではなく、苦しむ人に寄り添

おうとする菩薩の願いを表し

た詩として読むことができる

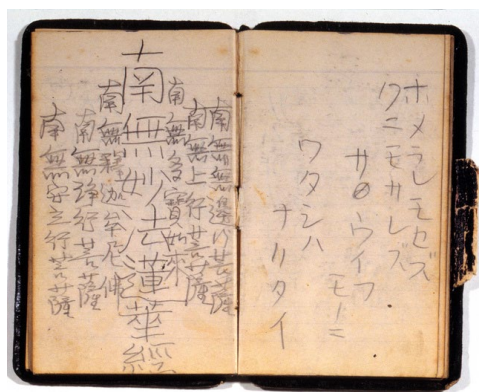
のではないかと思います。



銀河鉄道の夜のモチーフとなった
岩手軽便鉄道

さらに心を打つのは、「皆にデクノボーと呼ばれ、褒められもせず、苦にもされず」という一節です。現代の私たちは、つい誰かに認められたい、評価されたい、SNSで「いいね」が欲しいという承認欲求に振り回されがちです。しかし賢治は、誰からも称賛されずとも、ただ誰かのために尽くす、純粋なあり方を理想としました。人に褒められるために善い行いをするのではない。評価されるために人を助けるのではない。ただ、そこに苦しむ人がいるから寄り添う。ただ、そこに悲しむ人がいるから声をかける。その見返りを求めない姿に菩薩の心が表れているように思います。

サウイフモノニ ワタシハナリタイ



宮澤賢治の手帳

そして最後に、賢治はこう記します。「サウイフモノニ ワタシハナリタイ」賢治は、「私はそういう人間である」と言ったわけではありません。「そういうものに、私はなりたい」と願ったのです。ここに、信仰者としての深い謙虚さを感じます。賢治自身、悩み、迷い、時には自分の至らなさに嫌悪する一人の人間でした。だからこそ、「なりたい」という強い願いを信仰の力で持ち続けようとしたのではないかと感じます。

法華経の「さとり」とは

法華経の悟りとは、どこか遠くにある完成されたゴールではなく、不完全な自分を自覚しながらも、理想に向かって一步一步、努力し続

ける、その「歩み」の中にこそあるのではないのでしょうか。私たちは完全な人間ではありません。怒ることもあり、迷うこともあり、人のために動けない日もあります。しかし、それでもなお、少しでも慈悲深い人になりたい。少しでも誰かの苦しみに寄り添える人になりたい。その願いを持ち続けるところに、法華経を生きる道、法華経の悟りがあるのだと思います。そして「雨ニモマケズ」を記した手帳の最後には、南無妙法蓮華経のお題目や略式のお曼荼羅が記されているのが、とても象徴的に感じます。

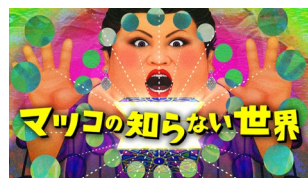
賢治の遺言とは

賢治は昭和八年、三十七歳で亡くなります。最後の遺言として、「国訳妙法蓮華経を一千部おつくり下さい。表紙は朱色、校正は北向氏、お経のうしろには『私の生涯の仕事はこのお経をあなたのお手もとに届け、そして其中にある仏意に触れて、あなたが無上道に入られますことを御願いたしますこの外ありません』ということを書いて知己の方々にあげて下さい。」と、父に法華経を千部印刷して知人に配るよう遺言されました。

宮澤賢治は、法華経をただ読むだけの人ではありませんでした。お題目の教えを、文学に、農業に、暮らしに、そして人への寄り添いの中に生きようとした人でありました。私たちもまた、完璧ではありません。けれども、法華経を信じ、お題目を唱える者として、少しでも人を敬い、慈しみ、感謝を忘れず、誰かの苦しみに気づける人でありたいものです。



遺言で配られた国訳 妙法蓮華経



TBS「マツコの知らない世界」に 地獄VRが登場

4月14日にTBS「マツコの知らない世界」にて、妙法寺の「地獄VR」が紹介されました。放送後は体験会へのお申込みが急増し、毎月1回開催だった体験会も現在は月2回開催に。毎回チケット完売となるほど、大きな反響をいただいております。マツコ・デラックスさんの番組の影響に驚かされます。ご興味のある方は、ぜひQRコードよりお申込みください。7月26日・8月2日・3日に開催予定です。

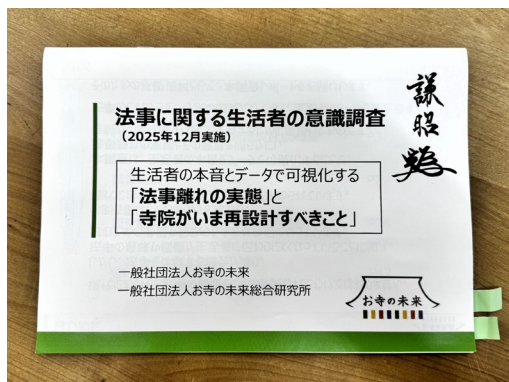


「法事に関する生活者意識調査」の研修会を開催

5月22日、妙法寺にて「法事に関する生活者意識調査」の研修会を開催いたしました。ご講師には、一般社団法人「お寺の未来」の井出悦郎先生をお招きし、昨年末に実施された法事に関する生活者意識調査（法事に関するアンケート調査）をもとに、現代の方々が法事に対してどのような不安や思いを抱いているのかを学びました。

今回は、妙法寺の職員をはじめ、日頃お手伝いをいただいている僧侶の皆さま、弥生の杜墓苑のスタッフ、石半石材店さま、横浜セレモの皆さまなど、妙法寺を支えてくださっている多くの関係者にもご参加いただきました。「どうすれば、もっと安心して法事を迎えていただけるのか」「どうすれば、供養の大切さを実感していただけるのか」「どうすれば、“法事をしてよかった”と思っていいただけるのか」。その問いを、妙法寺に関わる仲間と共に考える時間となりました。

亡き方を敬い、家族が手を合わせる尊い時間。その供養の心は、決して変わるものではありません。一方で、案内の仕方、説明のわかりやすさ、受付や導線など、見直せることはまだ多くあります。守るべきものを大切に守りながら、変えるべきところはきちんと見直していく。それもまた、供養を大切にする姿勢なのだと感じます。「法事をしてよかった」「みんなで手を合わせる時間があってよかった」と思っていいただけるお寺でありたい。今回の研修を通じて、その思いをあらためて強くしました。

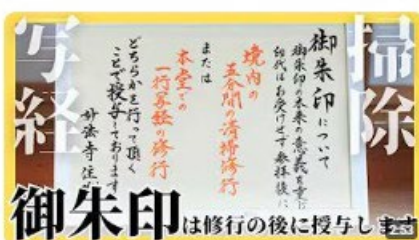




妙法寺のYouTubeチャンネルを少しずつ更新しています。お墓やお布施のことなど、皆さまの暮らしに関わる仏事の疑問を、住職がわかりやすくお話ししています。ぜひお気軽にご覧ください。



あなたの『生き方』と『心』に新しい名前を
38回視聴・4日前



御朱印の本来の意義を大事にしています。
41回視聴・4日前



月に一度、まずはお寺に来てみませんか？
39回視聴・4日前



お位牌やお仏壇にお困りの方はご相談ください。
154回視聴・1か月前



妙法寺の人形供養法要【過ごした年月に感謝の心でご供養を】
301回視聴・3か月前



かかりつけのお寺とは？【新しいご縁のカタチ】
161回視聴・3か月前



「お布施はお気持ちで」をやめました。
690回視聴・3か月前



日蓮宗宗門史跡 妙法寺
4547回視聴・7か月前



仏事や墓じまいも全てお任せ！「将来の不安や負担がない樹木葬」
396回視聴・10か月前



妙法寺公式LINE
ともだち登録お願いします

浄心道場・響語をはじめ、妙法寺のさまざまな
行事やイベント情報などをお届けします。